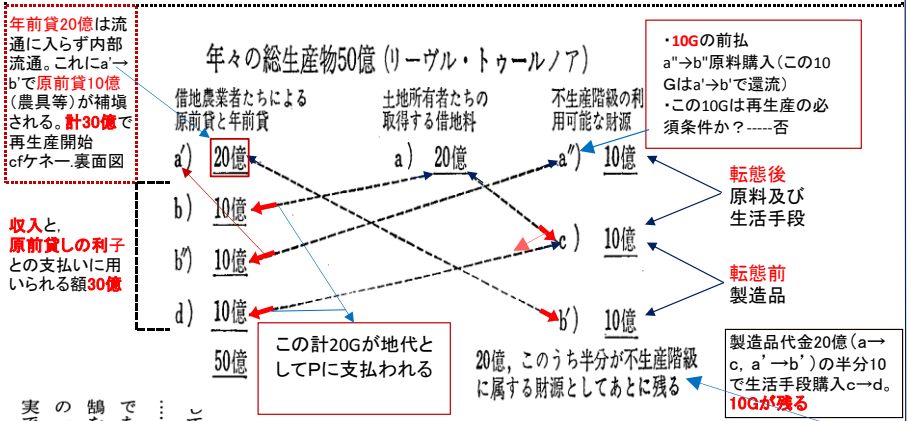
ケネー（1694-1774）　経済表

ケネーの《経済表》の理解に意味があるのではない。ケネーは取り上げた**問題**（それは何か）を《経済表》を用いてどう説明したかを理解することが目的。

三つの階級からなる封建国家

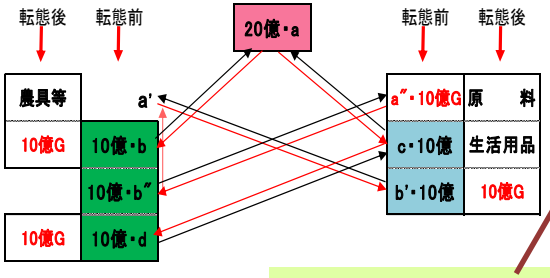
- **F**＝生産的階級,農業や採取産業部門の資本家と賃労働者
  （代表----資本家的借地農業者）
- **P**＝地主・君主及び十分の一税収得者（代表----地主）
- **S**＝不生産的階級（＝工業・商業・サーヴィス業等の産業の従事者）

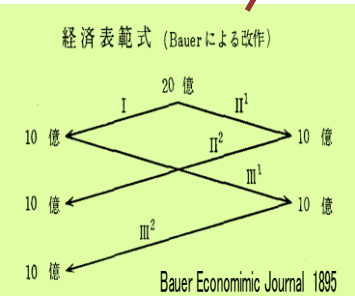
資本の再生産の秩序＝物理的法則。農業者の経営資本＝年前払がいかに流通過程における転形を経つつ純生産物を産出し，年々同じ規模の**単純再生産**を繰り返すか，の構想。三大階級間の流通のみ問題。同一階級内の流通は無視。



流通は貨幣により媒介

・a,a″が流通の出発点・上図
① a→b　② a″→b″　③ a→c
④ c→d　⑤ a'→b'
（a″→b″で流通に投じた貨幣は　a'→b'で還流）





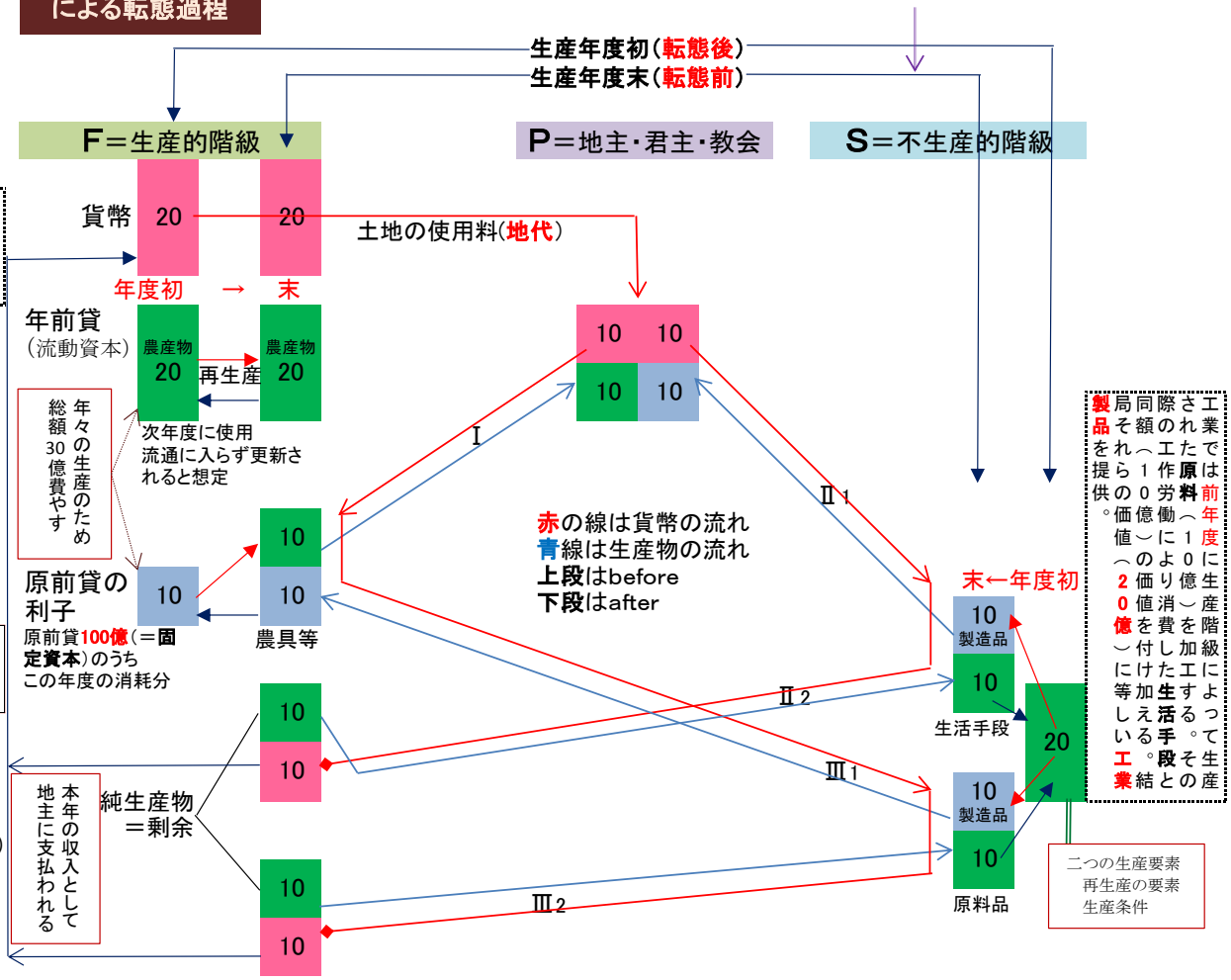
その着想の雄大にして適切なこと，その表現の簡単にして要をえていることは，まことに驚嘆すべきものがある。「世界開闢以来三大発明があった。……第一は文字の発明であり……，第二は貨幣の発明であり……，第三はこれらの両者の結果でありかつ完成であるところの経済表である」というミラボーの言は，種々の意味において正鵠を失したものといわねばならぬが，しかし，経済表が経済学史上における最も画期的な業績の一つであり，それによってはじめて経済学が学的体系をもつに至ったことは否定しえない事実である。

久留間『経済学史』p19

Bauerの範式による転態過程

生産年度末に現存しているのは①借地農業者の手元にある**20億**の貨幣■
②50億の土地生産物■　③20億の価値ある製造品■

草稿集⑤s645



- 創業時は **原前貸し**（固定資本）100億＋**年前貸**（流動資本）20億，プラス20億リーブルの**貨幣**
- **原前貸**の年々の消耗分は10%（＝**10億**，**原前貸の利子**と呼ぶ）
  年々維持のため工業製品で更新（補塡）
- 年々生産的階級は**30億の費用**で，生産年度の終わりに，**50億の価値ある農産物**〔20億の農産物は元の農産物の形態で再生産。**10億**の工業生産物は10億の農産物で置き換えられ，**20億**の農産物（純生産物＝剰余）が新たに作り出された〕＋**20億**リーブルの**貨幣**（地代の支払いに用いる）を所有。

F

転態プロセス

- スタート------Fは P に土地の使用料20億リーブルを支払う
- Ⅰ　----PはFから10億で農産物を購入
- Ⅱ1----PはSから10億で工業生産物を購入
- Ⅱ2----SはFから農産物を購入（生活手段）。Fに10億リーブルの貨幣が還流
- Ⅲ1----FはPへの販売で得た10億リーブルでSから前年中に消費された農具等を購入
- Ⅲ2----Sはその貨幣で原料品をFから購入⇒Fに10億の貨幣は還流。

（久留間『経済学史』p19～，『剰余価値学説史』Ⅰ s.282～p.381～，『草稿集』⑤s.624～p.475～
『反デューリング論』MEW20 p260～